**ＥＳＤＧｓ通信　第156号　「主体的・対話的で深い学びを創る」　手島利夫**

いつもお世話になっております。

多くの学校が夏休みに突入しましたね。

先週月曜日に、神奈川県のある中学２年生（３学級）全員にＳＤＧｓの導入授業「ＳＤＧｓっ

て何だろう」の授業の提供をさせていただきました。授業後に私に近寄ってきたり、あるいは並

んで教室に戻りながらも、「ありがとうございました。めっちゃ楽しかったです。」「今までこう

いう授業受けたことがなかったので、とっても面白かったです。」「なんだかやる気になりまし

た。」等々、笑顔で、大声で、あるいは恥ずかしそうに声をかけてくれる子どもさんたちが大勢

いました。こういう時って、うれしいものですね。

また、水曜日には江東区立東雲小学校の先生方に、中学校と同じＳＤＧｓ導入の授業を提供し、

子どもさんの立場から「学び」を体験していただきました。近くの先生方と相談したり、立ち上

がって、自分たちの作った「○○克服物語り」を互いに読み合ったり、楽しそうに交流する場面

など、真剣な中にも笑顔や和やかさがあふれる学びを楽しんでいただきました。

授業後には、中学校の先生方には生徒さんたち一人ひとりの学ぶ姿を踏まえて、また、東雲小

学校の先生方には、ご自身がこの授業に参加された体験を踏まえて、どちらの先生方とも「主体

的・対話的で深い学び」の価値や創り方についてのお話をいたしました。

　一般的なＳＤＧｓの研修会や子供向けの授業では、「いつまでも続く私たちの未来のために、

２０３０年までに解決すべきことを１７の目標にまとめたものです。国際連合の・・・・。」な

どという「説明」から始まり、更には、ＳＤＧｓの目標を１から順に「解説」を始めたり、関連

する映像や資料を見せたり、その中の何番が気になるか、「選ばせ」たり、どうしてそれが気に

なったのか「理由を書かせたり」しがちです。

　しかし、それで子どもたちがＳＤＧｓに対してわくわくしたり、親しみを感じたり、取り組も

うという「心」に火がつくのでしょうか。

　子どもたちの学ぶ心に火をつけるＳＤＧｓの導入って、どのように進めたらよいのでしょう

か。それには、主体的・対話的で深い学びをつくる「学習過程」の進め方を知らなくてはなりま

せん。

　親しみのもてる出会い、ふれあいを通して、多様な気づきに共感し合う活動、判断し、位置付

ける活動等を通してＳＤＧｓの基本的な理解を深めることがまず重要なのだと思うのです。そ

の上で、自分なりに満足している「自分のＳＤＧｓ」に冷や水を浴びせ、それらを打ち砕くとこ

ろから混沌が生まれ、新たな視点からの学び直しが始まるのだと思うのです。

　以下の資料は、主体的・対話的で深い学びを創るための学習過程のサンプルです。

　また、今週末7月23日（土）午後2時から、タワーホール船堀２階、イベントホールで開催

される公益財団法人**東京青年会議所江戸川区委員会の主催「選びたい未来を創るーかんがえ、**

**えらぶ、わたしのこたえー」**では、子どもさんから大人までを対象にした事業の中で、この学習

過程を意識した「ＳＤＧｓの導入授業」を実施いたします。当日参加も可能なようですので、お

近くの方はおいでください。（資料もご参照ください）

　ご覧いただき、問題点や改善案をお感じいただきましたら、ぜひ教えてください。

また、このような授業をご自分の学校で進めてみたいという方は、ご連絡。いただければプレ

ゼンや配布資料等につきましても無料でご提供いたします。



* 「つかむ」「調べる」「まとめる」という学習過程で指導されている先生方も多いかと思いま

す。「つかむ」段階で、単元全体に関わるどのような事実に気づかせ、どのような手順で問題

意識をもたせ、それをどのようにして「子どもたち自身が大切に思える学習問題」にまとめ

られるのかについて、十分な検討をしていくことが大事だと思います。



**７月２３日（土）江戸川区のタワーホール船堀２階、イベントホールにて開催されます。**

（当日用の資料よりスケジュールのわかる部分をご紹介しました）



日本の先生方のほとんどは、小学校時代から大学の卒業まで、知識・理解中心の教え込み「授

業」とテストの中で育ち、主体的・対話的で深い「学び」のご経験に乏しく「主体的・対話的で

深い学び」と言われてもそのような「学び」を体験したこともなく、どのように創り、どのよう

に仕掛けたらいいのかよくわからないという現実があります。

　このことは、教育政策を進めるお立場の方々もほぼ同様です。また教育行政に対して指導や助

言をされる政治家の方々も同様で、大量生産・大量消費時代の「２０世紀型」労働者育成のため

の教育観しか持ち合わせていない方がほとんどです。当然、市民の方々も同様です。

ですから、気をつけていないと「個別最適な学び」などと言って、ＩＣＴを使った新しい時代

の詰め込み教育を子どもたちがやらされかねないのです。

　基礎的、基本的な内容をきちんと身につけ、その上に発展的な学習を創るという趣旨は十分に

理解できます。そこにＩＣＴを活用する重要性もわかります。しかし、それらは主体的・対話的

な楽しい学びと並行的に進めるべきことで、「小学校の時期は徹底して基礎・基本を身につけさ

せる」とか、中学、高等学校で「１年生には基礎的なスキルを身につけさせ、２～３年で問題解

決的な取り組みをさせる」などという方法は、愚策だと思います。

　小学校時代でも、中学、高等学校の１年生時代であっても「事実に目を向け、自分の感じる問

題意識を出発点とした主体的・対話的な学びの楽しさを十分に感じることこそが、学びの基礎・

基本といえるのではないでしょうか。

**＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊**

「ＥＳＤ・ＳＤＧｓ推進研究室」　手島利夫

URL=https://www.esd-tejima.com/

　事務所：〒130-0025　東京都墨田区千歳１－５－１０

☏＝ 03-3633-1639　 090-9399-0891

Ｍａｉｌ＝contact@esdtejima.com

**＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊**

**前回のＥＳＤＧＳ通信にはいつも以上に様々なお声をいただきました。ご紹介します。**

「ESDを反映させた通知表初見改訂版」は大変参考になります。中高の教務主任にも転送させて

いただきました。（大阪府の中学校の校長先生より）

通知表所見の書き方は、非常に参考になります。若い社員の成長を、言葉にして伝えることの

重要性を再認識させられました。社会人になると、どうしても日々の業務に忙殺されてしまい、

若い社員の成長を見逃してしがちです。ついつい「社会人なんだから自分で考え行動してくださ

い・・・」となっている現状があります。人の成長を見て、その内容を書き出すことで、自然と

相手に伝えれるようになるので、このことは、シッカリ頭の片隅に置きながら、残り2年半の社

会人生活をワクワクしながら過ごしてゆきます。（社会人の方より）

ＥＳＤを反映させた通知表所見は大変興味深いです。熟読させていただきます。（小学校の先

生より）

大変タイムリーな内容で、興味深く読ませていただきました。（小学校の校長先生より）

通知表の所見ポイント、指導の裏返しなので大切です。こういった内容を校内でじっくり語り

合う時間を保障したいものです。（大学教授の方より）

　　　　　　　　　　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

　お忙しい中このように様々なお立場の方からお声をいただけ、大変光栄です。今後ともご指

導をいただけますよう、お願いいたします。